■2026年4月1日（毎月1日発行）■発行 〒160-0016 新宿区信濃町10（株）文学座 ■文学座公式サイト https://www.bungakuza.com ■定価120円（消費税込）■

BUNGAKUZA TSUSHIN 2026.4 Vol.800

文学座通信

●第八〇〇号に寄せて …… 1
●本公演『かさぶた式部考』…… 2～3
●インタビュー
杉村さんと過ごした時間――小林勝也……4～5
●新座員紹介 …… 6
●座内賞／アトリエ短信……7～8

第八〇〇号に寄せて

『文学座通信』が、一九五九年六月の創刊から八〇〇号を迎えた。当初の誌名は『文学座』だった。表紙に簡単な紹介文がある。第五号まで編集発行人を務めたという芥川比呂志による文章だ。

★この「文学座」は劇団文学座が毎月1日に発行するパンフレットです。これが創刊号、どうぞよろしく。★機関紙というより手紙です。ふだん着の訪問、五分間のおしゃべりです。★支持会員の方々には、今までの年4回の「アトリエ」の代りにこれを毎月お届けするわけです。〔後略〕

月報として創刊された『文学座』は、読者（支持会員）に宛てた「手紙」であり、「ふだん着の訪問、五分間のおしゃべり」という気易さが信条だった。その後、第三十五号（一九六二年四月）から『文学座通信』となる。途中、劇団の分裂騒動で一号休刊し、一九六〇年代には二度の合併号があったものの、基本的に毎月発行され、文学座の歩みを伝えてきた。

第一七四号（一九七四年二月）で『文学座ちゃいむ』と改題。同号の「アトリエ短信」によれば、『文学座ちゃいむ』が正式名称で、通称を「ちゃいむ」としたかったようだが、奥付は『文学座通信』のまま。第一七五号から『ちゃいむ』自体が誌名になっている。この変更について、第一七五号にこんな文章が見える。

客席が暗くなるとチャイムの澄んだ音がひびいて舞台の幕が開く――そんな記憶を思い出される方もきっといらっしゃることでしょう。築地小劇場の舞台がドラで始まったように、文学座の舞台は創立以来つい最近までチャイムの音で幕をあけてきたのです。

先月号から本誌の名称を改めたのは郵便事情によるのですが「ちゃいむ」と名付けたそもそもはこの習わしに由来します。また、昭和三十年七月に第一号を発行した龍岡晋個人編集による座内報があったのですが、当初名称が決まっておらず名なしのまま十三号を数えました。さすがに差し支えるというので一同思案。選ばれたのが故石山季彦氏（杉村春子亡夫）命名になる「チャイム」です。以来時折り発行される座内報は、これに習って「チャイム」と呼ばれて親しまれてきました。

かつて龍岡晋が編集していた座内報の名からとって、新たな『ちゃいむ』が生まれたのだった。その名づけ親は杉村春子の亡夫、石山季彦というから、創刊以前の歴史をふまえていることがわかる。

▲創刊号

▼174号

蛇足ながら、ちょうど誌名変更の頃、一九七四年十月から翌年一月までのアトリエ公演の「現代作家書きおろしシリーズ」が予告され、水上勉『古河力作の生涯』（仮）、別役実『数字で書かれた物語―死なう団顚末記―』、井上ひさし『暗殺』（仮）がラインナップに載った。ところが、水上、井上の二作は〝やむにやまれぬ事情〟で延期され、別役の『数字で書かれた物語』が繰り上げ上演。次いで、つかこうへいの既発表作『戦争で死ねなかったお父さんのために』を大幅改訂して、ほとんど新作の体で上演された。その後、水上勉は自作小説『五番町夕霧楼』を自ら脚色して面目を保ったが、井上ひさしの企画は結局頓挫。文学座での井上戯曲上演は、一九七八年の『日の浦姫物語』まで待たねばならなかった。

これはほんの一例にすぎないが、劇団の動静とともに、各時代の裏面史が密やかに刻まれていて、バックナンバーを繰る手が止まらなくなってしまう。

第四二三号（一九九四年十一月）の「アトリエ短信」で、再び『文学座通信』と改名する旨の告知があり、原点回帰の意味も込めて約二十年ぶりに、第四二五号（一九九五年一月）から誌名が戻った。以来『文学座通信』として今日にいたる。

歳月を重ね、今号で八〇〇号を数えたわけだが、劇団としては創立九十周年を間近に控えている。本誌は文学座の〝今〟を絶えず記録し、支持会員の方々や読者諸氏に届けながら、歴史を編んできた。来る九十年の節目も文字に残し、未来に伝えていくのが、本誌の役割だろう。

■2026年4月1日（毎月1日発行）■発行 〒160-0016 新宿区信濃町10（株）文学座 ■文学座公式サイト https://www.bungakuza.com ■定価120円（消費税込）■

アトリエ短信

■株式会社文学座 代表取締役交代のお知らせ

このたび、劇団の定期総会終了をもちまして、田中章子が株式会社文学座代表取締役を退任いたしました。後任として、鈴木美幸が選任され、代表取締役に就任いたしました。今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、また、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■山梨県立文学館朗読公演会

令和八年山梨県立文学館特設展「昭和文学をふり返る――収蔵資料より」の関連事業として、武田泰淳作『ひかりごけ』の朗読公演会を開催します。文学座期待の新鋭による舞台です。

公演に先立って告知動画が完成しましたので、ご覧ください。

『ひかりごけ』
作＝武田泰淳
演出＝戸塚 萌
照明＝阪口美和
音響＝池田優美
企画＝武田知久

◇出演＝相川春樹、武田知久、松浦慎太郎、比嘉崇貴
◇6月7日（日）14時開演
〈開場は開演45分前〉
◇山梨県立文学館講堂
※お申し込みなどの詳細は、山梨県立文学館HPにてご確認ください。

■文学座 創立90周年記念ロゴマーク デザイン公募

文学座創立90周年記念するロゴマークを公募することとなりました。奮ってご応募ください。

◇募集期間＝4月1日（水）10時～30日（木）23時59分
◇応募資格＝制限なし。個人・グループ等、どなたでも自由に参加可能。（国内在住の方に限る。座員も応募可）
◇大賞（1名）＝賞金3万円＋90周年記念公演全演目ご招待
◇選考方法＝座内での一次選考を経て、最終候補は全座員による投票を行い、採用作品を決定。
◇選考期間＝5月1日（金）～15日（金）
◇結果発表＝選考結果は、応募者全員にメールにてご連絡します。採用作品は、文学座創立90周年記念に関するイベントで発表予定です。発表後、劇団公式SNSおよびHP等にて公開します。なお、採用作品の他、優れた応募作品には、今後の広報や展示等でご紹介する場合があります。
※募集要項やお申し込み方法等の詳細はHPでご確認ください。
◇お問い合わせ
TEL 03・3351・7265
（11～18時／土・日・祝を除く）

■**退座**　3月3日付で演出部の片山俊彦、3月31日付で演技部の倉野章子、演出部の金英秀が退座しました。今後3名は座友となります。

■**退社**　2月6日付で映画放送部の斎藤将が退社しました。

観劇体験をプレゼント！

「ギフトチケット」について

観劇を希望していても、様々な事情で演劇にふれる機会の少ないご家庭に文学座の観劇体験をプレゼントすることのできる「ギフトチケット」（1口3千円）となります。文学座が提携する子ども支援団体を通じた、今年3年目の取り組みです。

三菱UFJ銀行
四谷支店
普通4360713
（株）文学座切符代金口

ギフトチケットご協力の旨を公演チケットお申込はがきにお書き添えいただき（またはお電話）、左記口座にご送金ください。

出演情報

◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵：『ハリー・ポッターと呪いの子』（J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出）～2026年末 TBS赤坂ACTシアター

★川合耀祐：『母の人生、ガブリと食らう』（深井邦彦 作・演出）4/4～12 吉祥寺シアター

★釆澤靖起、松本祐華：『メアリー・ステュアート』（フリードリッヒ・シラー原作、ロバート・アイク 翻案、小田島則子訳、栗山民也演出） 4/8～5/1 PARCO劇場（渋谷），5/9・10 J:COM北九州芸術劇場（福岡），5/14～17 兵庫県立芸術文化センター，5/21～23 穂の国とよはし芸術劇場PLAT（愛知），5/30・31 カナモトホール（札幌市民ホール）

★増岡裕子：『ガールズ＆ボーイズ』（デニス・ケリー作、小田島創志訳、**稲葉賀恵**演出）4/9～26 新国立劇場（初台）
※増岡裕子の出演は4/10,13,17,22,25

★鍛治直人：『BACK BEAT』（イアン・ソフトリー、スティーヴン・ジェフリーズ作、石丸さち子訳・演出）4/12 水戸市民会館，4/17～19 穂の国とよはし芸術劇場PLAT，4/25・26 Skyシアター MBS（大阪），5/3～17 EX THEATER ROPPONGI，5/21～24 兵庫県立芸術文化センター

★山本郁子：『Flowering Cherry ～夢見るチェリー～』（ロバート・ボルト作、小田島恒志訳、早船聡 演出）4/15～23 本多劇場（下北沢）

★松岡依都美、山岡隆之介：『リア王』（W・シェイクスピア作、小田島雄志訳、長塚圭史演出）5/5～24 彩の国さいたま芸術劇場 ほか

★石田圭祐、櫻井章喜：『ジプシー』（スティーヴン・ソンドハイム作詞、アーサー・ローレンツ脚本、高橋亜子訳・訳詞、クリストファー・ラスコム演出）5/6～24 日本青年館ホール ほか

★常住富大：『ハムレット』（W・シェイクスピア作、松岡和子訳、デヴィッド・ルヴォー演出）5/9～30 日生劇場（日比谷）ほか

★浅野雅博、星智也：『リチャード三世』（W・シェイクスピア作、松岡和子訳、森新太郎演出） 5/10～31 PARCO劇場（渋谷）ほか

★石森咲妃、インディー・チャン：『巡回朗読 第二回 空（くう）』（蕭勁強作、**インディー・チャン**演出）5/14～17 中野RAFT

★映画・テレビ・ラジオの出演は 文学座 映画放送部 X（旧Twitter）@bungakuza_mg をご覧ください。